

# 2010年 英語の立教が進化します。

立教大学では、2010年、全学共通カリキュラムにおける英語教育を大きく改編します。国や文化の違いを超え、他者を理解し自身の考えを発信するために、そして、自ら学ぶ専門分野をより深く学ぶために、これからの時代に必要な英語力を育成していきます。

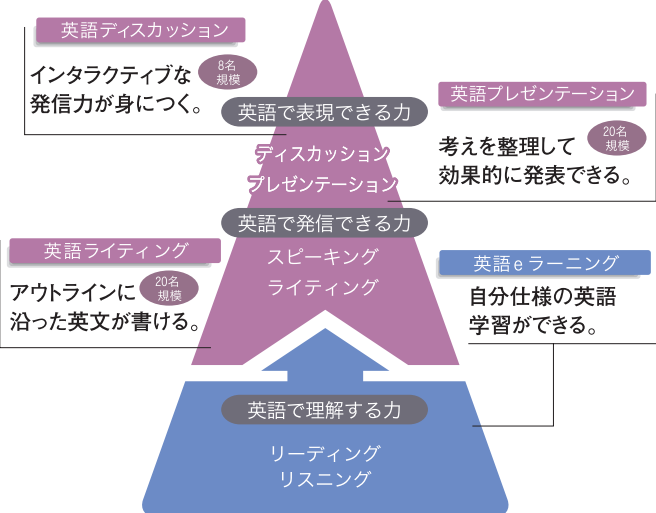
カリキュラムの特長は、全10学部的一年次生を対象に、能力別クラス編成による8〜20名規模の徹底した少人数教育にあります。他大学では、学部ごとの少人数クラス編成などが見られるものの、本学規模の大学で、全学部生を対象としての実施は初めての試みと言えます。

一年次の必修科目には、「英語ディスカッション」「英語プレゼンテーション」「英語ライティング」「英語eラーニング」の4つのクラスが設置されます。それぞれ原則として授業は英語で行われ、単語や文法などの英語の「知識」を、少人数によるきめ細かなやりとりを通して、本当のコミュニケーション能力に高めていきます。

【8名規模】  
教員1名に対して学生8名規模の徹底した少人数クラスで、さまざまなテーマについて自分の意見を英語で表現できる力を身につけます。

【20名規模】  
英語プレゼンテーション  
多様な英文資料を読む

【20名規模】  
英語ライティング  
アウトラインに沿った英文が書ける。



▶教員1名に対して学生8名規模の英語ディスカッションクラス。英語で議論する力を身につけます。

み、自分の意見を論理的にまとめ、英語で発表することで英語を総合的に使える力を育成します。

【20名規模】  
教員のきめ細かなフィードバックによって、より高度な内容、より長い文章が構成できる力を身につけていきます。

●英語eラーニング  
読解力を強化し、英語の基本スキルを伸ばします。授業時間以外にもインターネットを利用して自宅からでもアクセスでき、自分のペースで自分のレベルにあった自律的な学習をサポートします。

一年次で、基盤となる英語力をしっかりと身につけた後、二年次以降は、さらにレベルアップして、海外の

大学へ留学しても対応できる力や、卒業後、国際機関などで活躍できる水準の英語力などを身につける「言語副専攻制度」を用意(2011年度導入)。個人の目標とする将来像に向かい学ぶ環境を整えています。聖書と英語を学ぶ私塾から始まった立教大学。めまぐるしく変化する世界を理解し、グローバルな社会で活躍する人材育成に向けて、「英語の立教」はさらに進化します。



▲授与式の様子

立教大学は1月20日、世界最大のNGOのつBRAAC(Bangladesh Rural Advancement Committee)バンングラデシュ農村向上委員会 総裁のフアズレハサン・アベッド氏に名誉博士学位を授与するとともに、記念講演会「社会変革への新しい道」を開催しました。

また、BRACおよびBRAC大学との間で、学術・実践両面の包括連携協定を調印しました。本協定にもとづいて、わが国を含むアジアを主要な対象として、貧困問題、都市問題、環境問題等のグローバル化に伴い深刻化する社会的課題解決に資する人材育成・研究活動を共同で実施予定です。

## 世界最大のNGO「BRAC」総裁来たる フアズレハサン・アベッド氏に名誉博士学位授与

名誉博士学位の授与と記念講演会の模様をオンデマンド動画で配信しています。詳しくは立教大学HPをご覧ください。

フアズレハサン・アベッド氏は、1936年バンングラデシュ生まれ。ダッカ大学、グラスゴー大学卒業後、30代でバンングラデシュ第二の都市チッタゴンにてシェル・オイル社のCEOに就任、バンングラデシュ独立戦争勃発後に渡英しました。ロンドンを拠点に祖国の戦争早期終結に尽力し、同年12月の終戦後に帰国。そして、インドからの数百万人に及ぶ難民の生活復興支援の取り組みを開始し、1973年にはバンングラデシュ北東部農村に社会開発を目的としたBRACを設立しました。

BRACは、「真の社会変革のためには、貧困層における経済的安定、教育普及、自立心向上こそが不可欠である」との信念に基づき、「貧困撲滅、貧困層の自立支援」を自らのミッションに掲げています。貧困層向けの無担保小規模融資「マイクロファイナンス」や、これに保健医療・金融・家族計画・ソフツォール教育等のプログラムを取り入れた人と自然が共生する先進的な「循環型省エネ建築」です。太陽光発電は、屋根一体型出力30KW。施設全体の使用電力のおおよそ8%を目標に自力でまかなっています。また、天然温泉のご入浴と森林浴というぜいたくな癒しの空間がお客様をお迎えいたします。日本および世界の青少年に実践的な学びと体験、交流の場を提供する、モデル施設として、より一層社会に貢献してまいります。

ぜひ皆様のご利用をお待ちしております。

キープ協会ホームページ  
<http://www.KEEP.or.jp>

財団法人キープ協会  
専務理事 正木実



キープ協会が取り組んでいる「KEEPPORTHEFUTURE」教育と環境の清里プロジェクト、校舎の皆様のご理解、ご支援のおかげをもちまして、3月28日には日米関係者600人を迎

え、清泉寮新館、国際交流センターの落成祝別式および感謝の集いや記念講演会とコンサ

「自然と共生する平和な未来のために」

社会学部 教授 佐久間 孝正  
現代文化学科  
2002年本学赴任  
専門:教育社会学、日・英多文化社会の比較研究

理学部 教授 入江 正浩  
化学科  
2007年本学赴任  
専門:光応答性分子機能材料

理学部 教授 秋山 稔  
化学科  
1971年本学赴任  
専門:分子分光学

理学部 教授 垣江 邦夫  
数学科  
1968年本学赴任  
専門:解析学(偏微分方程式)

文学部 教授 設楽 國廣  
史学科  
超域文化学専修  
1992年本学赴任  
専門:イスラーム複合社会

現代コミュニケーション学部 准教授 デルモン保坂・マリイフランス  
異文化コミュニケーション学科  
2001年本学赴任  
専門:美術史を通しての比較文化学

現代コミュニケーション学部 准教授 久米 昭元  
異文化コミュニケーション学科  
2000年本学赴任  
専門:異文化コミュニケーション論

現代心理学部 教授 押見 輝男  
心理学科  
1980年本学赴任  
専門:実験社会心理学、集団力学

コミュニティ福祉学部 教授 赤塚 光子  
福祉学科  
1999年本学赴任  
専門:障害児・者の地域生活支援

観光学部 教授 白坂 蒼  
交流文化学科  
1998年本学赴任  
専門:地域研究法(地理学)、外国地誌など

## 3月で退職された先生方